

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 京都市立紫竹小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒603-8422
京都市北区紫竹下園生町26

E-mail : sichiku-s@edu.city.kyoto.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 115名 女子 116名 合計 231名
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

「環境を守ろう」＜17H計画＞

- 7月 エコライフについて学習し、環境への意識を高める。
- 8月（夏休み）エコライフチャレンジを実践する。
- 9月 エコライフチャレンジの報告及び振り返りをする。
- 10月 長期宿泊学習に向けての準備をする。
 - ・ 若狭の自然や原発問題について調べる。
- 10月 長期宿泊学習

長期宿泊体験（H25年10月1日～4日）

＜若狭湾青少年自然の家＞

＜世久見地区漁師民宿＞

- 10月 まとめ
 - ・ 自分の身の回りの環境問題について調べ、自分にできることを考え学校や地域に発信する。
- 2月 紫竹エコ本舗（リサイクルショップ）に取り組む。
 - ・ 企画
 - ・ 商品作り
 - ・ 販売
 - ・ 収益の使途の検討

国立若狭湾青少年自然の家や世久見地区の漁師民宿での長期宿泊体験学習

(目的)

- ・ 自然の中で様々な体験を行うことで、感動する心、生命を尊重する精神、環境を守ろうとする態度を養う。
- ・ 仲間との集団生活を通して、仲間意識や責任感、他人への思いやりの心を育てる。

(授業実践)

○自然の素晴らしさに触れる学習

<ESDの視点> 美しい若狭湾の景色や神秘的な海の生き物に触れ、自然の素晴らしさに気づき、かけがえのない地球環境を守ろうとする行動につなげる。

- ・ **生き物観察** 箱めがねを使って水中の様子を観察し、海の中には様々な生き物がいることを知る。



子どもたちは、磯浜の限られたスペースであったが、所狭しと動き回り、夢中になって生き物を探していた。そして、様々な生き物と出会うと歓声をあげていたのが印象的であった。この活動を通して、海の美しさや神秘を十分に堪能することができた。

○命の大切さを実感する学習

<ESDの視点> 干物作りや舟つりの体験を通して、人間は、魚等の命を頂いて生かされていることを実感し、すべての命は尊く、かけがえのないものであるという考えがもてるようにする。

- ・ **干物作り** 魚をさばいて干物作りをする。



地元の漁師さんやその家族の方に魚のさばき方を教わりながらアジの干物作りに挑戦した。「人は、魚の命をいただいて、生かされている」という話も聞き、黙々と作業に取り組んでいた。子どもたちなりに魚の命の重たさを感じた時間となった。

- ・ **舟釣り体験** 湾内で釣りさおを使って釣りを体験する。



大きな波の中、1隻に7～8人が分乗し、舟釣りを体験した。舟は予想以上に揺れ、船酔いに苦しんだ子どもたちも少なくなかったが、自分のさおに当たりがくると、漁師さんの指導の下、一生懸命魚を釣り上げていた。釣られまいと必死でもがく魚の姿に、その命を感じたようであった。

○人とのつながりを育む学習

<ESDの視点> 集団活動の中で、役割分担をし、自分の仕事を責任をもって最後までやりきること、一人ではできないことでも、みんなで力を合わせればできること、目標を達成した後の充実感、また、みんなのために自分は役立っているんだという自己有用感を味わえるようにする。

- ・ **カッター体験、いかだ作り** 集団の中で、役割分担をし、協力して活動に取り組む



<カッター体験>

・カッター体験

今年度は、自然の家から、3泊目の民宿がある世久見の漁港まで、カッターで移動することとなった。このコースは距離も今までよりも長く、子どもたちにとってはチャレンジとなる体験であった。1日目に自然の家の前の穏やかな湾内で練習をした。本番は、あいにく、天候不良のために実施することはできなかったが、湾内で再度カッターに試乗。力を合わせて一生懸命漕いだが、1日目とは違い、強風と高波で思うように進むことができず、自然の驚異も身をもって感じる事ができた。



<いかだ作り>

・いかだ作り

作り方の説明を受けた後、木材を運び、組み合わせて、ロープで固定させる作業に取り組んだ。大きな資材なのでクラス全員の力が欠かせない。役割分担をしていますが、なかなかうまく組み立てることができず四苦八苦していたが、それだけに、完成した時の喜びは大きく、自然の家の前の湾内で海の冒険を楽しんだ。

<ESDの視点> 普段あまり接することのできない漁師の方の体験談を聞くことで、その方の思いや願いに触れ、自分の生き方を考えることに繋げていく。また、漁港で働いている人の姿に触れ、その人たちと自分たちの生活が繋がっていることに気づくようにする。

・地元の漁師との語らい、港の見学

地元の漁師の方の体験談を聞いたり、漁労長の説明の元、漁港を見学したりする。



それぞれの民宿で、漁師の方から、漁のことや仕事に対する熱い思い等、普段聞けない貴重なお話を聞かせていただいた。また、漁港では、いろいろな魚が水揚げされ、威勢のよい掛け声でコミュニケーションをとりながら働く人の姿に見入っていた。この見学で、毎日の食卓や給食で魚を食べている自分たちの生活と漁港とのつながりを実感することができた。今年も漁師さんのご好意で、多くの子どもたちが魚を持たしてもらった。

- ＜ESDの視点＞ 漂流物を通して、外国との繋がりを意識できるようにする。
・ビーチコーミング 海岸の漂流物を観察して、気づきを交流する。



海浜センターの方を講師に迎え、海岸に打ち上げられた物から、隣国とのつながりや環境問題について考える学習をした。子どもたちは、浜辺に多くの物が打ち上げられているのに驚き、海の環境について考える時間をもつことができた。そのまとめとして、海岸に打ち上げられた物を使ってエコな壁飾りを製作した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）